

公開実用平成 1-179758

Ref.10

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-179758

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)12月25日

B 05 B 9/04
B 65 D 83/14

6762-4F
Z-7214-3E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 エアゾール容器

⑯ 実 願 昭63-75013

⑰ 出 願 昭63(1988)6月6日

⑱ 考 案 者 今 田 明 夫 大阪府大阪市平野区加美西1丁目10番12号 釜屋化学工業株式会社内

⑲ 出 願 人 釜屋化学工業株式会社 東京都台東区浅草橋5丁目23番6号

⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木 ハルミ

明細書

1. 考案の名称

エアゾール容器

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 各種薬剤、濃縮酸素などを収容しノズル管の押圧によりノズルからの噴霧薬剤を吸入あるいは患部などに吹き付けるようにしたエアゾール容器において、顎載せ部を連設したノズルと、薬剤を収容する容器本体と、該顎載せ部を臨ませる開口を設けた蓋と、回動して該開口を開閉可能な外蓋とからなることを特徴とするエアゾール容器。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、エアゾール容器の改良に係る考案である。

(従来技術)

従来のエアゾール容器は、蓋を外し、小型容器の場合は容器を片手で握って指先でノズル管を押圧して薬剤を噴霧させて吸入あるいは患部などに吹き付けるかしているが、携帯用としては容量の

大きい容器たとえば最近、使用が普及するようになった濃縮酸素の携帯用のエアゾール容器は、容器自体もやや大きいが使用する場合、口、鼻の周囲を覆う漏斗状の比較的大きい付属部品を必要とし、これを使用時にノズル部に取り付け、使用後は該部品をノズル部から外して容器の適宜部位に付設するようになっている。

(考案が解決しようとする問題点)

上記従来技術でやや大型の携帯用のエアゾール容器は、付属部品を必要とするうえ、該部品の使用時、不使用時の取り付け、取り外しが面倒でしかもかさが高く、容器も大きいので片手で握持してノズルを押すのは手の小さい人にはことに扱いにくい欠点があった。

本考案は、上記従来技術の欠点を除去して使用に極めて便利なノズルと、蓋の改良を試みたエアゾール容器を提供することを目的とする。

(問題を解決するための手段)

容器本体から突出したノズルに顎載せ部を連設し、蓋に開口を設けて該顎載せ部を隠ませ、該開

口を開閉する回動可能な外蓋を該蓋に定着して成る。

(作用)

外蓋を回動させて蓋の開口を露出させ、ノズルの顎載せ部に顎を載せることによりノズルを押圧して薬剤を噴霧吸入する。

(実施例)

本考案のエアゾール容器は第1、2図に示すとおり、容器本体1、ノズル2、蓋3、外蓋4とからなり、該容器本体1とノズル2は従来公知の構造でチルト式であるが、その最も要旨とするところは、第3図の分解斜視図に示すようにノズル2の傾斜前面の噴出口2bの下位前方へ顎載せ部2aをやや上方へ傾斜させて所定長さに突出、連設している点である。図中、2cはノズル管を示す。

蓋3は、各図に示すとおり前面から上方にかけて開口3aを設けて使用者の顔面の鼻、口部周辺を囲むようにしてなり、下端の取付口3bで容器1の上端部に取り外し可能に凹凸嵌合しているが、該開口3aにノズル2の顎載せ部2aが正確に臨む

ように、蓋内面に1対の位置決め用のリブ3e、
3eを突設し、第4図の蓋下面図のようにノズル
2の後部を該リブ3e、3e間に位置させている。

図中、3eは外蓋受け、3dは外蓋取り付け用の
小孔である。

外蓋4は、ほぼ四半球状で後開口4aと下開口
4bを設けてなり、前記蓋3の開口3aを開閉可能
に覆ってその取付突起4dが蓋3の小孔3dに嵌合
して該蓋3に前後方向に回動可能に冠着し、前端
の係合部4cが蓋3の外蓋受け3eに係合して不本
意に回動しないようになっている。なお、容器本
体1、蓋3、外蓋4の形状や、該外蓋の取り付け
手段などは図示のものに限ることはなく、例えば
靴などに収容しやすい断面矩形、方形、多角形そ
の他何れの断面形状でもよいこと勿論である。又、
外蓋と蓋の取付位置をずらすことにより開口部を
更に大きくすることも可能である。

上記の構成にかかる本考案のエアゾール容器は、
第1図の不使用時の状態から使用する時には、外
蓋4を上方回動させて蓋3の開口3aが露出すれ

ば、第2図の使用状態の縦断側面図に示すように顎を顎載せ部2aに載せることによりやや上傾した該顎載せ部が、容器本体1内の弁部に設けたばねに抗して押し下げられてノズル管2cが傾斜して容器本体内の薬剤あるいは濃縮酸素などをノズルの噴出口2bから噴出させて使用者の鼻孔や口から吸入され、あるいは吹き付けられる。

使用後は外蓋4を逆回転させて開口3aを閉鎖する。容器本体は治療用薬剤に限らず最近の健康志向、大気汚染などへの対応策としての酸素吸入に使用するに際し、小型容器の場合には勿論のこと濃縮酸素を比較的多量に収容する携帯可能なやや大型のものにおいて一層有効である。

(考案の効果)

本考案のエアゾール容器は上記の構成、作用にかかるから、①回転可能に蓋に取り付けた外蓋は一々取り外すことなく指先で蓋との係合を外したり押し下げたりして蓋の開口を露出、閉鎖することができる。従って、蓋の置場を必要とせず、紛失や汚損のおそれがない。②指でノズルを押し下

げることなく顎を顎載せ部に載せるだけで薬剤や酸素などを噴出させることができる。③従って、やや大径の容器でも、また手の小さい使用者でも両手で容器本体を把持したまま顎を載せるだけで使用できる。④使用勝手がよいうえ、部品点数が容器本体、顎載せ部を設けたノズル、蓋、外蓋の僅か4点であり、その構成もなんら複雑な機構はなく簡単で廉価に製作できるなど実用的価値ある考案である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案のエアゾール容器の実施例を示し、

第1図は、不使用閉蓋状態の要部縦断側面図

第2図は、開蓋使用状態の要部縦断側面図

第3図は、要部分解斜視図

第4図は、蓋の下面図

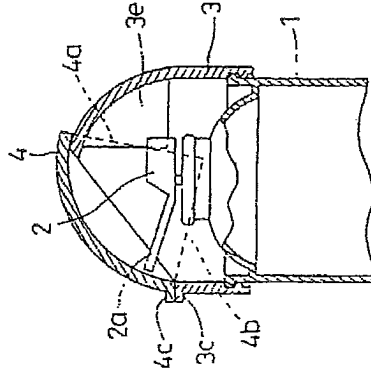
第5図は、要部拡大縦断面図である。

1…容器本体 、 2…ノズル

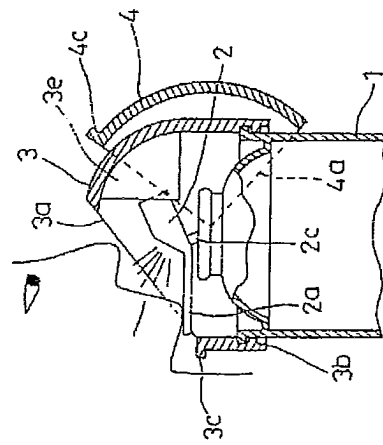
2a…顎載せ部 、 3…蓋

3a…開口 、 4…外蓋

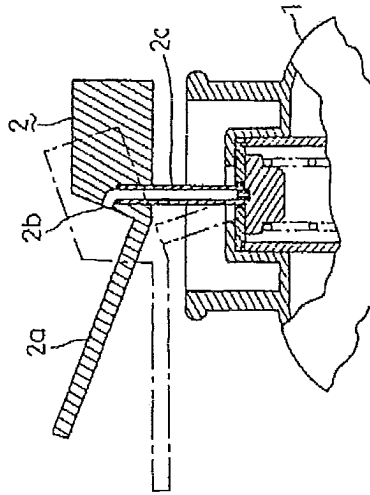
第 1 図



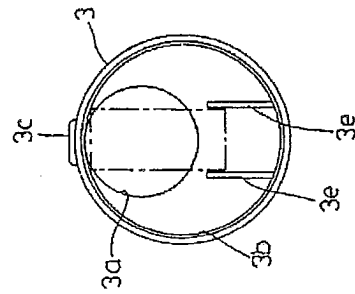
第 2 図



第 5 図



第 4 図



第 3 図

